

# “4代目”にリニューアル

## 実流配管でキャビテーション再現

前澤工業は新たなキャラバン車（移動展示車）を製作した。実流配管を搭載しキャビテーション現象を再現しながら、同社がラインアップするキャビテーション抑制形の制御弁をはじめとする製品を紹介できる。要望に応じてキャラバン車が直接全国に赴き、同社技術者が説明に立ち、製品PRとともに技術継承にも貢献していく。

新たなキャラバン車は片面が実流配管を搭載した「実流エリア」、もう片面がバルブ製品のカットモデルなどが並ぶ「展示エリア」となっている。

技術的説明をサポートするため、初めて画面にモニターを設置した。

実流エリア側には圧力開放型自動減圧ユニット「フローバランス」、耐キャビテーション特性のある流量制御バタフライ弁「ジェットポート」、蓄電機能付遮断弁「キャパシタ式緊急遮断弁」を搭載。水槽や発電機、ポンプを設け、実際にアクリル配管等に水を流し、キャビテーション現象やその抑制効果等を見ることができ、背面カラーも見やすさを配慮し選定した。展示エリアには現状はカムレバーロック式急速空気弁や急排フラッシュのカットモデルなど7点を搭載し、バルブ構造の理解促進につなげる。希望に応じて入れ替えることもできる。

車両サイズは全長8・66m、全高3・56m、全幅2・5m（ただしウィングに片側1・75mの幅があり、両ウィングを開けた場合には6m）、車両重量は発電機等を合わせて11・0t。担当者

は「ご関心があればぜひお近くの当社営業などに気軽に声をかけていただければ」と活用を呼び掛けている。

有志で参加する中、実演に聞き入った。

◇ 宮川多正

同社が「みずのわ号」として初めてキャラバン車を整備したのは40年前の1983年。今回のリニューアルは15年ぶり、「4代目」になる。過去3台は事業体やコンサルタント、エンジニアリング企業、工事店など累計数万人を集客してきたという。4代目はフロント部のエンブレムに同社のマークをあしらった。

9月29日には本社で社内向け説明会を実施。事務、技術に限らず多数の社員が

紹介に立つ宮川社長



展示エリア(上)と実流エリア(下)



要望に応じて全国へ

「むしろ機会がないので見たい、来てほしい」とご要望をいただいていた。バルブをよく理解されている方にも、若手技術者の方にも、実際に目で見、音を聞いてもらうことは効果的。当然当社の製品PRとしても活用するが、技術継承が課題になっている中、お客さまの勉強のツールとしても活用いただきたい。ウィズコロナの時代になって、PRとコミュニケーションのツールとして非常に有力なものになる。